

東日本大震災支援活動の軌跡

～私たちの700日～

——酪農学園大学生による震災支援ボランティア活動を検証し、展望する——

酪農学園大学学生ネットワーク(酪ネット)では、2012年度の活動を分かち合い、スペシャルゲストをお迎えして、今までの震災支援ボランティア活動を検証し、可能ならば今後の活動を展望します。多くの方の来場をお待ちしています。

◆日時:2013年2月8日(金)13時から

◆場所:酪農学園大学 黒澤記念講堂(入場無料)

I. 酪農学園大学学生ネットワークによるパネル展示(13時～18時)

2011.3.11から現在までの被災地の様子、復旧・復興の兆しと経過、酪ネットの活動の軌跡、仮設住民の人たちの声などを紹介します。酪ネットのスタッフが説明しながら、みなさんと意見交換ができればと思っています。

II. 特別講演(14時～15時30分)

●「被災者が体験した東日本大震災と大津波がもたらしたもの」



小澤睦子さん(肉牛農家 岩手県陸前高田市在住)

【講師紹介】陸前高田市の和牛の繁殖農家。震災により自宅と牧草地を津波で流されてしまう。高台にあった牛舎は助かったものの、牧草が底をつきかけ、絶望的な状況の時に本学の「先発調査隊」と出会う。調査隊の学生が牧草調達のために奔走、本学教員の尽力で本学と協力関係にある浜中町の酪農家と浜中町農協の協力で牧草が届けられた。

●「ジャーナリストが見た大震災～阪神から東日本まで」

外岡秀俊さん(元朝日新聞東京本社編集局長)



【講師紹介】外岡秀俊さんは、1953年、札幌生まれ。東京大学法学部卒業。1976年、大学在学中に小説『北帰行』により文藝賞受賞。大学卒業後、朝日新聞社入社。学芸部、社会部記者、ニューヨーク、ロンドン特派員、論説委員、ヨーロッパ総局長を経て、東京本社編集局長。2011年3月、早期退職し、郷里の札幌に居住。多数の著作があるが、震災関連では、『地震と社会』(上・下)(みすず書房、1997年)、『震災と原発 国家の過ち 文学で読み解く「3・11」』(朝日新書、2012年)、『3・11 複合被災』(岩波新書、2012年)がある。

【外岡さんからのメッセージ】できれば、阪神淡路大震災と東日本大震災とを比較して、そこから見えてくる問題をみなさんとともに考えてみたいと思います。先日札幌でも大訓練がありました。北海道では直下型地震も懸念されています。身近な問題として考える上でも、阪神淡路大震災の問題も考えてみたいと思います。

【酪ネットから】震災は終わっていません。今回は私たちの活動の700日目の区切りとすべく、震災問題に詳しく、日本を代表するジャーナリストの一人である外岡秀俊さんと、津波で被災し、親族を亡くされながら、北海道の人たちとの不思議な出会いと支援により肉牛農家の仕事に復帰された小澤睦子さんのお二人をお招きし、3・11 東日本大震災の意味、今後の支援のありかたを話し合いたいと思っています。

【主催】酪農学園大学学生ネットワーク(酪ネット)

【協力団体】酪農学園大学、NPO 法人 APCAS、NPO 法人 ChildFundJapan

【問い合わせ】酪農学園広報室 011-388-4158 koho@rakuno.ac.jp